

セミナー
セーフコミュニティ認証取得への道
No.13

セーフコミュニティ活動報告 災害時の安全対策委員会より

災害時の逃げ遅れ被害を防ぐために タオル運動・声かけ運動にご協力を

☆安否確認・救命効率があップ

災害時の安全対策委員会では、大規模災害発生時の高齢者等災害弱者と呼ばれる人たちの安否を確認し、逃げ遅れ被害をどのように防いでいくかについて、検討を重ねてきました。

そこで、迅速な安否確認が何よりも重要であるとして、市民の皆さんに、次の2つの運動についてご協力をお願いいたします。

まず1点目は、タオル運動です。これは、災害が発生した際に、玄関や門扉など、外から一目で見えるところに、タオルをくくりつけ、家の中には救助を求める者が誰もいないことを示すことで、消防団や自主防災組織などによる安否確認の効率をあップさせるものです。

2点目は、避難時のお隣さんへの声かけ運動です。ご近所すべてとは言いませんので、避難



タオル運動

「タオル運動の進め方」

- 災害が発生すれば、まずは、自身の身の安全を確保！
- 救助の必要がなければ、玄関や門扉など、外から一目で見えるところに、何色でもいいのでタオルをくくりつけるなどして掲げてください。
- 安否確認のため、3日間ほどそのまま掲げておきましょう。

する際には、両隣に一言「無事ですか？一緒に避難しませんか？」と、声をかけていただきたいと思います。もちろん無事が確認できれば、お隣さんの分もタオルを掲げてください。災害が発生すれば、自分と家族の身の安全を確保することが第一ですが、その後この2つの運動を市民すべての皆さんが実践することで、迅速な安否確認につながり、助かる生命が増えるはずですよ。非常時持ち出し袋にタオルを3枚加え、地域で行う防災訓練にも取り入れて実践してください。

日ごろからの準備による「自助」と、地域の力による「共助」で、逃げ遅れ被害を防ぎましょう。

☆阪南中央病院が 災害訓練を実施

3月9日、地域における災害時の医療拠点として期待される阪南中央病院で、脱線事故を想定した災害訓練が実施されました。これは、阪南中央病院、松原市医師会が共催し、松原徳洲会病院、明治橋病院からも関係者が参加して行われたものです。訓練は、以下の内容で実施されました。



災害訓練の様子

阪南中央病院 石川恵子副院長

訓練当日までの1年間、机上訓練の実施や各ゾーン・部門ごとの小規模訓練を繰り返し実施してきました。その成果が、今回の訓練につながったと思います。

院内ではすでに、今回の訓練を振り返り、アクションカードの修正や、より円滑な情報連携に向けた検討を行っています。

今後は、松原市医師会や他の病院、行政とのつながりについても考えていきたいと思っています。

まず、脱線事故にともなう、救急搬送の受け入れ要請があったのち、院内に災害対策本部が設置され、平時から決められた通りに医師・看護師・技師がそれぞれの持ち場につき、次々と搬送される負傷者を、病院正面入口にて受け入れ、トリアージ（災害などで多数の負傷者が出たときに、治療や搬送の優先順位をつけて、負傷者を分類すること）⇓治療⇓適切な医療機関への搬送までが行われました。また、マスク対応にかかる疑似記者会見も行われ、本番さながらの訓練となりました。

今後も、松原市医師会、阪南中央病院、松原徳洲会病院、明治橋病院が連携して訓練を実施していくとのことですよ。

問合せ 市民安全課